

「未来へつなぐ」 ～いのち・まち・こころ～

阪神・淡路大震災から20年を迎え、当時の状況を知るかたがたにあらためてご自身の経験や20年経った今思うことを語っていただき、分野ごとの側面からこの20年を振り返ります。貴重な経験や教訓を市民全体で受け継ぎ、新しい芦屋のまちづくりにつなげていきたいと思ひます。第4回は「災害発生から復興～それぞれの現場で～」です。

震災から20年―医療現場の記憶

■大災害はいつも想定外である
「まさか阪神間で大震災とは」「近代建築がこんなに脆いとは」
私も含め当時の多くの人々の感想ではなかったでしょうか。今後は大災害はどこかで起こり、誰かが、何らかの形で被災する。その現実からは今後も誰も逃れられません。

■安全で安心できる場の確保

当時の市立芦屋病院の建物は大きな損傷は免れ、入院していた患者、勤務していた職員は全員無事で、被災者の受け入れ・診療の機能を果たすことができました。
停電が短期間で済んだこと、井戸水が使えたことも幸いでした。病院までの交通路(アクセス)が十分確保されていたことも今となっては大切なことでした。
この経験が改築された新病院に

生かされていることは言うまでもありません。

■非常時に発揮される人間力

地震の発生は早朝だったため、初期対応は少数の当直勤務者が担いました。近接する警察学校の学生さんも院内巡回、安否確認を手伝ってくれました。そして多くの職員が自発的に出勤し初動対応に当たりました。

■復興への道程

孤軍奮闘を長時間続けることは不可能です。被災約半日(1日後)には勤務者の陣容も少しずつ、外務との連絡手段も徐々に整えられ、ボランティアのかたがたや医療支援チームの参加もあり診療体制は正常化していきました。
しかしその過程で、被災者の救済には身体への傷以外に、心の傷、生活基盤の喪失といった問題に対応できるような中・長期的計画が必要となることにも気づかれました。
幸いこの方面は研究もされ、対策も進んでいるようです。

■おわりに



阪神・淡路大震災当時の芦屋病院のようす (平成7年)

■寄稿いただいた金山良男氏

は、12月5日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

《シリーズ》阪神・淡路大震災20年経って考えること 企画課 2127

震災から20年経って

震災当日、自宅のある武庫川の近くから自転車で鳴尾御影線に沿って市役所に向かった。甲子園、今津に向かうにつれ家屋が東西方向に傾いているのが見られ、徐々に被害の大きさが見えてきた。西宮駅付近からは相当家屋が倒壊していた。東西方向にも南北方向にも傾いて倒れているところを見ると、西に行くにつれて被害が大きかったことを物語っていた。

芦屋のまちも同様かと不安な気持ちがいっぱいだったが、午前8時過ぎに春日町に入ったときは、以前に自分が区画整理に関わったところは、家比較的新しく、さっきまで通ってきた西宮市域の家屋に比べると被害は少ないように見えた。打出小植町から中央地区(茶屋之町・大榎町・公光町付近)にかけては相当数の家屋が倒壊して

■復元への道程

追われながらも状況に合わせてそれぞれの職員が各自の持ち場でそれぞれの経験と判断で工夫と微調整を加えた結果、数時間後には外来フロアは機能的かつ効率的な臨時病室となっており、受付フロアは救急患者搬入・診察・処置と連なるまさにEU(救急外来)と化してしまっただけのことが成し遂げられたのは、それぞれの力量に裏付けられた創意・

■おわりに

工夫のおかげにはかなり感謝します。また、これらのかたがたが自らも被災者でありながら各自の職責を果たしたことを忘れてはなりません。

■おわりに

考えた。市役所に急ぐことにして、午前8時半ごろ、付近の倒壊家屋を横目に本庁舎北館3階の職場に着いた。階段付近はクラックが入っており、大きな余震があればどうなるのか不安なまま見渡した。2、3人の職員が来ていた。ひどい惨状でとても使える状態ではなかったが、職員の集合場所が必要であり、とりあえず庁舎東側の消防署の入口付近に集合しようということになった。自宅が被害を受けている人もあるだろうし、また、交通機関も不通となり職員がなかなか集まらなかった。

●プロフィール 阪本 登(さかもとのぼる)氏

昭和34年入職。震災当時都市計画部次長。平成13年3月建設部参事(都市計画担当部長)で退職。現在芦屋市友会会長。兵庫県市町村職員年金者連盟副会長。



※「芦屋川の歴史」は、「阪神・淡路大震災20年経って考えること」掲載のため、お休みとなります。ご了承ください。

●プロフィール 金山 良男(かなやまよしお)氏

平成6年6月、研修医として勤務した市立芦屋病院に、内科部長として着任。翌年1月に阪神・淡路大震災で被災。芦屋病院再建の中心的な役割を担い、平成25年3月31日に病院長として退職を迎える。元市立芦屋病院顧問。



※「芦屋川の歴史」は、「阪神・淡路大震災20年経って考えること」掲載のため、お休みとなります。ご了承ください。

昭和57年～昭和59年製の
トヨタ石油ファンヒーターを探しています

対象機種
LCR-3・LCR-3-1
LS-3・LS-3-1・LS-6

LCR-3タイプ LS系タイプ

型番表示部

〒467-0855 名古屋瑞穂区桃園町5番17号
株式会社 トヨタ
フリーコール
0120-104-154

(お客様よりお知らせ頂きました個人情報、商品の交換目的以外には使用いたしません)

現在の石油ファンヒーターはPSCで定められた安全装置が全機種についております

KOBELCO 神戸製鋼グループ
ELEGAN KONAN
介護付有料老人ホーム

神戸製鋼グループが運営する介護付有料老人ホーム
便利でありながら閑静な住宅街、神戸市東灘区に立地。

見学会開催
2015年1/14(水)
11:00～14:00
(参加費:1,000円/人 昼食付)
詳しくは下記フリーコールまで

0120-65-8208

神戸製鋼グループ(神戸製鋼所85%出資)
〒658-0015 神戸市東灘区本山南町3丁目3番1号
TEL:078-411-9600 FAX:078-411-9674
ホームページ http://www.s-carelife.co.jp